

## 第2学年 組 道徳学習指導案

指導者

### 1 主題名「気持ちのよいあいさつ」

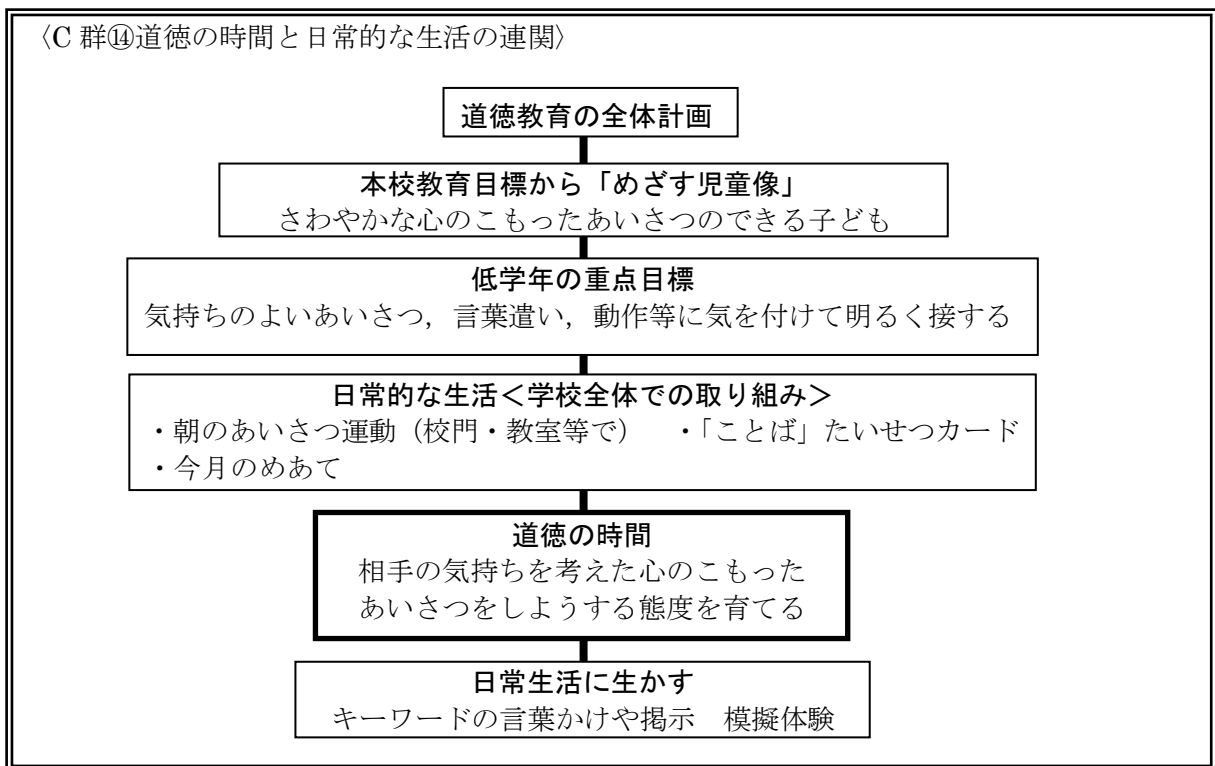
低2－(1)(気持ちのよいあいさつ, 言葉遣い, 動作などに心掛けて, 明るく接する。)

### 2 ねらいと資料

礼儀正しい対応をされたときの主人公の明るい気持ちを共感的に捉えさせることを通して, 相手の気持ちを考えた, 心のこもったあいさつをしようする態度を育てる。

資料: 「げんかんはいえのかお」(学校図書)

### 3 主題設定の理由



- (ア) 本主題は, 状況をわきまえて心のこもった適切な礼儀正しい行為ができる児童を育てようとするものである。礼儀とは, 心が礼の形になって表れることであり, 礼儀正しいことをすることによって, 自分も相手も気持ちよく過ごせるようになる。よい人間関係を築くには, まず, 気持ちのよい対応ができなければならない。その中でも, はきはきとした気持ちのよいあいさつは, 人間関係を円滑にし, お互いの心を明るくする。学校や家庭・地域の中でよい関係を築いていくためには, 気持ちのよいあいさつや言葉遣いが大切であり, その根底には相手を思う気持ちが必要である。したがって, 他人との関係が意識できるようになったこの時期に, 気持ちのよいあいさつや言葉遣い, 動作など心のこもった礼儀正しい対応が, 自分も相手も明るい気持ちなることに気付かせることは, 大変意義深い。

(イ) 本学級の児童は、学校に登校したときや下校するときに校長先生や学級担任など、自分にとって身近な人には元気のよいあいさつができる。また、仲間意識の芽生えとともに、友達同士でもお互いに笑顔であいさつをし合うようになってきている。しかし、普段接することの少ない人に対しては、あいさつができず戸惑うこともある。また、あいさつが相手の気持ちを明るくするものということに気が付いていない児童の姿も多くみられる。

そこで、礼儀正しい応対をすることで、お互いの気持ちが明るくなるということを気付かせ、相手の気持ちを考えた心のこもったあいさつをしようとする態度を育てたい。

(ウ) 本時指導にあたっては、資料「げんかんはいえのかお」を活用し、主人公のおじさんの気持ちを共感的に理解させながら、相手の気持ちを考えた心のこもったあいさつのよさをとらえさせたい。

本資料は、主人公が町内会のお知らせを配るため、何軒かの家を訪ねる。初めの二軒で出てきた子どもは、話しかけてもあいさつや返事がなく、気持ちが暗くなる。しかし、三軒目で出てきた子どもは礼儀正しく応対することができ、心が明るくなる話である。あいさつや礼儀正しい応対は、相手を気持ちよくさせることに気付かせることができる。よって、本資料はねらいとする道徳的価値を達成するうえで効果的と考える。

そこで本時指導では、導入段階において、登校時のあいさつの様子をビデオで振り返り、あいさつをしているときの気持ちや校長先生が毎朝校門の前であいさつをしているのはなぜかを話し合い、めあてにつなぐ。

次に展開前段では、用事で訪れた家で、玄関に出てきた子どもにあいさつをしても返事がないときの主人公の気持ちと礼儀正しい応対をされたときの主人公の気持ちへの共感的な理解を図らせる。その際、動作化を取り入れ、礼儀正しい対応をされると気持ちがよいことを実感させる。

展開後段では、日頃からあいさつや正しい言葉遣いをしようとしている自分の生活を「言葉大切カード」を使って振り返る。

最後に終末では、児童がさわやかな心のこもったあいさつをしようとする実践への意欲を高めるために、毎朝校門であいさつをしている校長先生の話をお聞かせする。

#### 4 準備

写真・ビデオ（登校時の児童のようす） 紙芝居 お面 板書用短冊 道徳ノート  
言葉大切カード

5 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入	1 登校時のあいさつの様子を振り返り、本時めあてについて知る。 ・ 笑顔であいさつしている。 ・ うれしい気持ちになる。	※ 日頃のあいさつの様子を想起しやすいようにビデオを見ながら振り返らせる。	○ 日頃のあいさつの様子や言葉遣いを振り返った発言をしている。 (発言・つぶやき)
展開前段	めあて あいさつはあい手をどんな気持ちにさせるのだろう。		
	2 資料「げんかんはいえのかお」を読んで、主人公の心情について話し合う。 (1) 教師の範読を聞く。 (2) 二軒とも返事がなく、しかたなくお知らせを玄関に置いてきたおじさんの気持ちを話し合う。 ・ どうしてあいさつができないのだろう。 ・ いやな感じだな。 ・ 失礼な子どもだな。	○ 資料への関心を高め、内容をわかりやすく捉えさせるために、紙芝居で提示する。 ○ 登場人物の特徴や主人公が置かれている状況を捉えやすくするために、短冊を提示する。 ○ 一軒目二軒目の子どもの応対の様子を押さえてから発問をする。 ○ 主人公の気持ちを共感的に理解させるために、動作化を通して気持ちを出させるようにする。	○ 二軒とも返事がなく、暗い気持ちになっている主人公の気持ちに迫っている。 (発言・つぶやき)
	おじさんは、二軒ともあいさつや返事がなかったときどんな気持ちだったでしょう。		
展開後段	(3) 三軒目で出てきた男の子が「何かご用ですか。」と応えたときのおじさんの心情を話し合う。 ・ さっきの子ども達と違うな。 ・ うれしいな。 ・ こんな子どももいるのか。 ・ なんて立派な子なんだ。	○ 動作化をして主人公の気持ちに共感させ、道徳ノートに記入してから発表させる。	○ 礼儀正しい子どもに出会って喜んでいる主人公の気持ちを捉えている。 (道徳ノート) ○ 正しい言葉遣いをすればお互いに気持ちがよくなることに気がついている。 (発言・つぶやき)
	おじさんは、「何かご用ですか。」と礼儀正しく応えられたとき、どんな気持ちだったでしょう。		
終末	3 自分の生活を振り返る。 ・ いつもあいさつができていからうれしい。 ・ これからは、相手の人が気持ちよくなるあいさつができるようにがんばろう。	○ 「ことばたいせつカード」を見ながら自分の言葉遣いを振り返る。	○ 自分の生活をふり返っている。 (発言・道徳ノート)
	4 校長先生の話聞く。	※ 毎朝校門であいさつをしている校長先生の思いを聞かせることで、今後の実践への意欲をもたせる。	○ 本時でねらいとして価値について、今後の生活の中に生かそうと意欲をもっている。 (表情・つぶやき)

## 6 板書計画

自分の生かっつをふりかえって


なにかようですか。

「なにかようですか」といわれたときのきもち

家の人はいないよ。

へんじがなかったときおじさんのきもち

おじさん  
町内会のお知らせ




めあて  
あいさつはあい手をどんな気もちにさせるだろう。


さつきとちがう  
うれしい  
りっぱな子だな  
こちらまでいいきもちだ

どうして  
あいさつもできないなんて  
いやだな  
しつれいな


1 けんめ



2 けんめ



3 けんめ



.....

.....

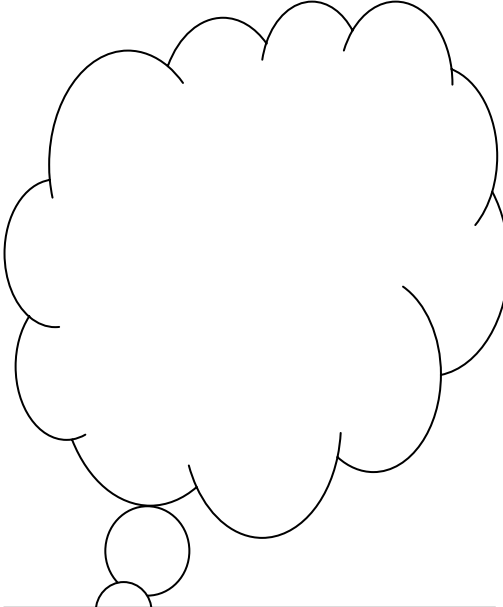
## 7 道徳ノート

☆ これまでの自分のあひまじつをひつかぎかえりかえりまてまじ。

どんな気もちであひまじつをしていましたか。

☆ げんかんはいえのかお

三げんめの家でできた子どもが「なにかようですか。」「とこっ  
たとき、おじさんはどんなことをこころの中でかんがえたでしゅう。



めあて  
あいさつはあい手をどんな気もちにさせるのだろう。

どうとくノート

なまえ ( )

